

C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変に対する治療薬の開発



■期待される成果

PRI-724のHCV肝硬変に対する安全性、忍容性および有効性を確認し、抗線維化治療薬の実用化を目指す

■想定される実用化の時期 2020年頃

■シーズの内容

HCV発現慢性肝炎発症モデルマウスで、PRI-724のHCV誘発肝硬変の治療薬としての可能性を検討した結果、肝線維化像の著しい改善が認められた

■プロジェクトリーダー

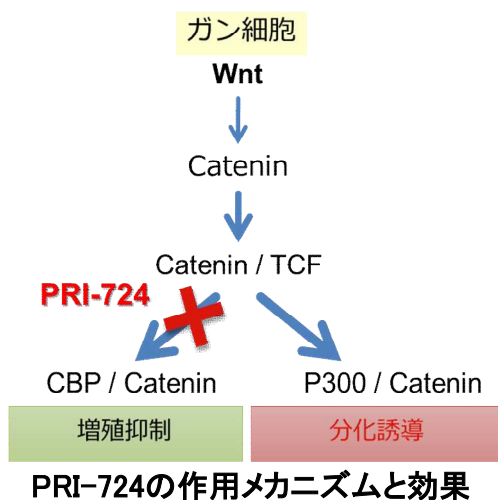
株式会社PRISM Pharma・小路弘行

■実施機関

公益財団法人 東京都医学総合研究所
東京都立駒込病院
株式会社PRISM Pharma

■実施期間

平成25年12月～平成29年6月



PRI-724 : PRISM Pharma 社が独自基幹技術であるペプチド模倣技術を用いて創薬した、Wnt シグナル伝達を阻害し、β-カテニンとCREB-binding protein (CBP)の蛋白相互作用を選択的に阻害する低分子化合物。ガン幹細胞も分化を誘導させることが明らかとなり、再発・転移も抑える有望なガン治療薬として米国において臨床試験が進行中。

ペプチド模倣技術 : 細胞内タンパク質/タンパク質相互作用 (Protein-Protein Interaction = PPI) を制御できる技術。細胞内外を標的とする当該技術は、医薬品開発においてより広い潜在的可能性を有する。

2012年 : 小原らがHCV誘発肝硬変マウスモデルでPRI-724の顕著な抗線維化活性を発見。

- ・Wnt 経路は、組織線維化に対しても深く関与する。
- ・種々の線維症モデルで、抗線維化効果が観察された。
- ・肝細胞の高い細胞交代率、肝生検による効果判定の確実性を踏まえると、HCV誘発肝硬変の治療薬開発が、極めて有望と考えられる。

2014年 : 医師主導型臨床試験として、「PRI-724投与後のC型肝炎患者を対象とした安全性および有効性の追跡評価試験」(PRI-724-1102)を国内で開始。